

# 女を“あなたの思う壺”に入れてしまう方法

今回は「恋愛秘訣マニュアル」というメールマガジンの発行者の、  
天野優志さんと今井が対談した内容を、天野さんに書き起こしていただきました。

聞き手 天野優志

語り手 今井悠



## 著作権について

「女を思う壺に入れる方法」(以下本マニュアル)は著作権法で保護されている著作物です。

本マニュアルの使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

本マニュアルの著作権はホット・プレイヤーに属します。

著作権者の許可を得ずして、本マニュアル(付録、特典含)の一部または全部をあらゆるデータ蓄積手段(印刷物、ビデオ、CD、DVD、テープレコーダなどの電子メディア、インターネットサーバ等)により複製、転載することを禁じます。

### 使用承諾許可書

本契約は、あなたとホット・プレイヤーとの契約となります。

本マニュアルの開封を持って、あなたは本契約に同意したとみなされます。

本契約とは以下の通りです。

#### 第1条 使用目的

本契約では、本マニュアルに含まれる情報をあなたが非独占的に使用する権利を承諾するものです。

#### 第2条 一般公開の禁止

本マニュアルに含まれる情報は、著作権法によって保護され、また秘匿性の高い内容であることを踏まえ、あなたはそのホット・プレイヤーとの書面による事前許可を得ずして出版及び電子メディア等の配信により、一般公開並びに転売してはならないものとします。

#### 第3条 契約解除

あなたが本契約に違反した場合には、ホット・プレイヤーは何の通告もなく、この使用承諾契約を解除することができるものとします。

#### 第4条 損害賠償

あなたが本契約第2条の規定に違反した場合、本契約の解除にかかわらず、直ちにホット・プレイヤーに対して、違反金として違反件数と販売価格を乗じた金額の10倍の金額を支払うものとします。またインターネット等で公開した場合には、一律500万円を支払うものとします。

#### 第5条 その他

本マニュアルはあなたが行う生活における生活向上を目的としておりますが、期待通りの改善が見込めず万一損害が生じた場合においても、ホット・プレイヤーは責任を負わないものとします。

「気になる子がいるんだけど、彼女がどう思っているか知りたいんですが」

恋愛相談をする男の何割かは、この質問をしてくるそうだ。

今井さんも、この質問を購入者の多くの人にされていると言う。

もちろん、今井さんしろ、僕、天野にしろ、ある程度恋愛ノウハウを  
もっている人なら、詳しい話を聞くだけで、だいたいの感触は得られる。

で、結論だけを言うと、この質問をしてくる男の場合、  
ほとんどは彼女は相談者を「大して気にしていない」ということになる。

「でも、デートに誘ったら、嬉しそうにしていたんですよ」

なんて反論をしてくるんだけど、  
「じゃ、デートは実現したの？」と聞くと、  
「いやあ、彼女の方が忙しいみたいで・・・」って  
答えを言う。

こういうことを聞くと、面と向かって言ったりしないが、  
そのときの僕の気持ちを正直に白状してみよう。

「あ、おもいきり彼女の思う壺になっているなあ～」

気になる女の子に対して、アプローチをしたとき、  
あいまいな答えを返されると、  
ついつい、「可能性あり」と思ってしまうもの。

だから、「デートを誘って断らない」ということに  
期待して、「可能性あり」と思ってしまうのだ。

彼女の本当の気持ちを知りたいと思うなら、  
「彼女がどう答えたか」を見るんじゃなくて、  
「こちらの要望が実現したのか」で見ればいい。

なんだかんだ言ってデートに誘っても、実現していないなら、彼女にデートをする気はないってことなのだ。

その時点で「恋人になる可能性がほぼゼロ」と判断することができるのだ。

ただし、こんな話を「気になる子がいるんですが」と相談している人にスバリ言うと、気落ちするだけだ。

この話を、僕は今井さんに投げかけてみた。

「私はストレートに答えるよ。

『今のままでは可能性は限りなくゼロですね』

って答えることもありますね」

ええっ、そんな答えをしたら、相談者は落ち込んじゃうんじゃないの？

「そりゃ、落ち込む人もいますけど。

ただし、こう付け加えるのを忘れてはいけません。」

なんて？

「今のままではね」

うーん、意味深・・・

要はやり方を変えれば可能性はあるってことかな。

「もちろん。確実にとは言わないけど、

過去の経験では8割方は恋人になる方向へ動き出すルーティーンがあるんです」

えっ、そんなのあるの？

「あるある。

それも、やる気があれば誰でもできるもの。

なんと言っても、会話力とかデートの企画力とか、  
いわゆるモテるために必要といわれているスキルを  
全く使わない方法なんです」

ええっ、それってどんなルーティーンなの？

「それはね、『お仕置き』ルーティーンって言うの」

おおっ、それはまた意味深な名前をつけるなあ。

なんとしても、それを教えてくださいな。

僕の読者にも、いるはずだから。

気になる女の子がいるんだけど、友達以上にどうしても  
なれない男がね。

「そうそう。

そういう男の人って、彼女から見たら、  
思う壺にはまってしまう男、なんです」

あ、それ分かる。

言い方を変えると「いい人」だよな。

「うーん、ちょっと違うかな。

いい人だと、もうちょっと性格のおとなしげな感じがするでしょ」

違うのかあ・・・ちょっと難しい。

「たとえば。

ある男に、なんとも思っていない女と、気になっている女がいるとするじゃないっすか」

うんうん。

「なんとも思っていない女だと、ちょっときついことを言ってしまう男、いますよね」

いるいる。

「誰にもきついこと言うのかというと、気になっている女にだけは例外で対応が違うんです」

あ、分かる。

なんとも思っていない女には、よく「好きです」と言われたりするのに、気になっている女だとくまくいかない。

そんなタイプね。

「そうそう。

なぜ、そんな結果になってしまうのかというと、気になっている女のと看だけ、彼女からみたら思ふ壺にはまってしまっているから」

なるほど。

「本当はどうでもいい女に対する対応と同じことをすれば、可能性はあるんだけど、それができない」

うーん、そりゃそうだ。

僕もそのタイプだなあ。

ついつい、気になっている女だと、「どう思ふんだろう」ということを考えてしまって・・・

「あ、天野さんもそのタイプでしたか」(苦笑)

そう、そのタイプ。

「じゃ、思ふ壺に入れられてしまった女を一発で逆転する方法、知りたくないですか？」

知りたいあ—————い。

「特別に天野さんに教えてしまいましょう」

うんうん。

「そのためには、ひとつ最初に説明しておかなければいけないことがあります」

なんででしょう。

「リスクを回避しないこと」

ん、リスクって？

「恋人になろうと思うなら、嫌われてしまうリスクがあるってことをちゃんと認識すること」

うーん、ちょっとつらいなあ。

「そう、それが恋人になれない理由、そしていつまで経っても、彼女の思う壺に入れられたまま、友達から進展しない理由なんです」

わかる。

「だから、リスクを回避しないと最初に約束してください」

分かりました、ちゃんと宣言します。

リスクを回避せずに、恋人になるためにチャレンジします。

「それでは、彼女の思う壺を脱して、恋人になる方法を説明しましょう」

『お仕置き』ルーティーンですね。

「そう」

楽しみだあ。

「まず、最初に準備に取り掛かる」

準備？

「そう準備。

まずは彼女の思う壺にどっぷりと漬かってしまいましょう」

ん？具体的に言うと？

「いままで彼女と一緒にいて彼女が喜んだことを思い出して、似たようなことをしてあげましょう」

なるほど・・・たとえば、コンビニの最新スイーツを買ってきてあげるとか？

「あ、いいですね、最新スイーツ、女の子は喜びますね」

いやあ、喜ぶからついつい買ってしまうんです。

まさに彼女の思う壺ですよ。

「そうそう。そういう思う壺にしっかりと漬かってしまう。すると、彼女にとって、都合がいい男コレクションのひとりにカウントされます」

うーん、あんまりうれしくない気が・・・。

「それはそうです。ここはまだ準備です」

あ、準備なのね。

ここからが本番なのね。

「はい、しっかりと思う壺に漬かったと思ったら、次はつんつん作戦です」

つんつん？

「彼女にあなたのことを気にさせる作戦です」

ふーん、つんつん作戦、どうなの？

「それは、あなたに別の女が存在することをにおわすんです」

別の女？

「たとえば、最近、同じ課の新人の女の子がやたらと頼ってくるんたよね、とか」

なるほど、ライバル出現って感じですね。

「うーん、ライバルじゃない。  
どうでもいいって感じの女」

えっ、そうなの？  
嫉妬心を煽るんじゃないの？

「まだ、その段階じゃない」

ほお、と、すると・・・

「なんてことない女なんだけど、やたらと絡んでくる。  
こんな話がいい」

なるほど、それを気になっている女性に話すんだね。

「そうそう」

すると、その時の彼女の心理状態は・・・

「余裕がしゃくしゃく」

なるほど・・・まだ、その女がライバルだとか、嫉妬するとか、そこまでいかないのね。

「元々、思う壺にどっぷり漬かった男相手に  
女は簡単には嫉妬なんてしません」

おおーっ、そりゃそうだ。

「だけど、そういう相手がいるという話になると、  
ちょっと見直したという気持ちは出てくる」

なるほど。

「要は男としての価値があがる。  
私の言葉では、性的価値の向上と呼んでいます」

うんうん。

「だけど所詮は、到底恋人にしたいと思うほど、  
性的価値が上がるわけではない」

うーん、そんなものかな。

「だけど、このちょっとだけの性的価値向上を  
つんつんと何度も繰り返す」

えっと、僕はなんとなく分かるんだけど、  
そこんともうすこし詳しく。

「その同僚の女の子の話をちょくちょく気になっている女にするワケ。  
つんつんって感じでね」

おおっ、そういうことね。

そのときの話をするイメージは、  
「全然興味ないんだけどさ。  
その子がやたらと絡んでくるんだよね」  
って感じだよな。

「そうそう」

うーん、分かる、その感じ。  
そんなことがあると、女性ってこんなことを言うんだよね。  
よかったじゃない、ってね。

「そのとおり！余裕しゃくしゃくと、上から目線で言うてる」

やっぱり？  
そんなイメージがあるんだよね。

でも、これも彼女の思う壺に入ってしまうんじゃないの？

「そう、その段階までは、彼女の思う壺の中にいる」

だよな。  
どうやって、思う壺から脱出するの？

「まずは空白期間を作る」

あ、それはありがちだよな。  
連絡を取らない期間。

恋愛の主導権を取り返す基本だね。

「そう、これは基本。ただ、実際に使うと効果はある」

どんな？

「あれ？最近、連絡ないなあ、ってね」

うーん、でも思う壺の中に入っている男だと、  
ちょっと効果少くない？

「そう。それだけで主導権を取れることはない」

ですよ。

「ただ、つんつん作戦と組み合わせていると、  
彼女の中に想像が生まれてくる」

あ、そういうことね。

「もしかして、最近良く話しに出てくる女性と、  
仲良くやっているのかも・・・、ってね」

うーん。

でもさ、都合がいい男コレクション程度の男なら、  
彼女は、それもいいんじゃない、って思ったりしない？

「しない」

そうなの？

「彼女のコレクションに手を出す女がいる。それは、  
『それもいいんじゃない』とはならない」

な・あ・る。

「だから、この作戦を使う前にどっぴりと彼女の思う壺に  
はまってあげる必要があるんだ」

わかる！

「どうしたんだろう・・・もしかして、状態を作る」

うんうん。

「でも、そんなことを聞けるはずがないし、  
聞こうと思って、メールしても空白期間だから無視」

おおっ、思う壺男だから、そんなことはいままでない。

気になる女からメールが着たら、忠犬のようにしっぽを振って、レスを返していそう。

「そう、だから、効果がある」

空白期間・・・そうやって効果出すんだ。  
今井さんも悪よのぉー

「何言ってるの、まだ、これは序の口です」

えっ、そうなの？

「ありがちノウハウでしょ、これでは？」

そう言われてみたら・・・

「ちょっと仕込みを念入りにしているだけ。  
普通のノウハウと基本的な考え方は一緒」

だよね。

「これによって起きるのは、彼女の気持ちにちょっとだけ揺さぶりを入れるくらい。  
彼女がモテるタイプの女だったら、  
これくらいじゃ落ちたりしない」

うーん、そうかあ。  
いい感じになるかも、と思うのは甘いのね。

「だけど、彼女が気にするということには来た。  
そこで必殺技を使う」

どんな？

「そのためには、誰でもいいんで居酒屋に飲みに行く。  
別に男同士の飲みでいい。」

ん？男同士？

それがなんか意味あるの。

「それ自体は別にない。ただ、この飲みの席で取る行動が、  
彼女が、『あなたの思う壺』に入ってしまう行動なんですよ」

うわっ、彼女の思う壺から脱出するんじゃなくて、  
彼女を自分の思う壺に入れてしまう？  
すげー、そんなのあるの？

「ある。

それがお仕置きルーティーンの本体部分」

おおっ、お仕置きルーティーンだぁ。

「まず、飲みの席で彼女に電話を入れる」

うん。

「で、出たら、無言のまま、ワイワイかやがやの居酒屋の中で携帯を放置する。  
特に女の子の声なんかがする場所がベター」

えっ？放置・・・

「すると、居酒屋のザワザワした  
女の声なんかが聞こえる音を彼女が聞くことになりますよね」

うん。

「なんだと思うかな」

うーん、なんだか分からない。

「正解！」

えっ？ どういうこと？

「なんだから分からない電話が空白期間にかかってくる」

うーん、なんか分からない・・・あ、これは、  
ノウハウがじゃなくて、彼女の気持ちね。

「そう、なんか分からない。  
だから気になる。  
それも最近、行動が変だ。  
なんかある・・・でもなんか分からない」

おー、それは気になる。  
気になるっていうのは、好きだから気になるっていうのもあるんだけど、  
なんとも思わない相手でも、何がわからないと気になってしまうもの。

「なんで、あんな電話掛けてきたんだろう」

そんな疑問が彼女の中にわきあがってくる。  
そうすると、嫌でも気になってしまう。

「そうそう」

これは、僕の専門分野だから、ちょっと補足説明しておくね。

人の好意というのは、会っていないとき、  
どれだけ長く相手のことを考えていたか、  
これが影響する。

片思いのとき、「あの人はいま何しているんだろう」なんて  
思っている時間があるよね。  
その時間が「好き」って気持ちをどんどん強くしてしまうんだ。

「そのとおり！」

そして、それは必ずしもプラス感情である必要はない。  
この場合みたいに、「なんかむかつく」と思っている、  
なんで電話してきたんだろう、と考え続けてしまうと、  
どうしても、感情が強化されてしまう。

「なるほど、そうですね。なんとなくは知っていたけど、  
ちゃんと理論で説明できるもんですね」

あ、このあたりの解説は僕のオハコなんで、  
もう少し、してもいいかな。

「お願いします」

そして、「なんで？」って思う気持ちは、  
その答えをもらうまでいつまでも残る。  
気になっている状態が続く。

「そうそう」

特に女性は、感情で考える性といわれているんだ。  
男が理屈で考える性と比較してね。

「なるほど、言えてる」

男だと、このとき、相手のこと気になっているのは、  
相手の行動が不審だから、と理屈で考えようとする。

だから、会わない相手を考え続けたとしても、  
理屈が出てくるから、あまり効果がない。

だけど、女は感情で考える性なんだ。  
だから、理屈はどうあれ、相手のことを考え続けてしまうと、  
感情が大きく動いてしまう。

「そういうことか！  
そのあたりは体験的にはよく分かっているけど、  
そんな理論があるんですね」

体験上でちゃんと確認が取れているノウハウだから、  
解説するのは簡単にできる。

基本的な理論はこうだけど、いろいろと例外事項も多いから  
机上だけだと、難しいんだけどね。

このルーティーンは今井さんの経験がベースですよ。

「もちろん。これで小生意気なモデル級の美人をずいぶん口説いたから、  
効果は保証付ですよ」

でしょ。  
おおっつと。

僕のウンチクを長く書いてしまった。  
ごめんなさい。

ルーティーンの続きをお願いします。

「あ、はい。  
飲み会で携帯放置をした後は、しばらくして、  
『あっ』とか言って、ブチって切る」

イヤな感じねっ。

「そう、イヤな感じにね」

うふふ。

「その後は、また空白期間に戻る。  
あと、女は知りたがりの性質を持っているということも忘れないでください。  
これかなり重要です。」

なんだったんだろうと、また悩ませるワケね。

「そうそう。

メールもレスしないし、電話が掛かってきても出ない」

なんなのよ、って思って彼女がコールバックしても、  
もちろん、マナーモードにしといて出ない。

メールも同じだね。

「そうそう、また、ちょっと空白期間に突入。」

うーん、でも空白期間だけじゃ、次につながらなくない？

「そう、だから、いよいよ、こちらから仕掛ける。

昼休みにメールする」

昼休み？

「単に自分に都合のいい時間にね」

なるほど、自分の都合に合わせるってことねの。

「そう、彼女の都合はことごとく無視する」

それが「彼女の思う壺」じゃなくなる理由なのね。

「そのとおり」

なるほど、あ。

メールするってどんなメール？

「言い訳メール」

えっ？ 言い訳するの？

「この前はごめんね。居酒屋で友達が俺の携帯いじってさ、勝手にかかってしまったみたいなんだよ」

ん？なんかさ、その言い訳メール、すごく嘘っぽいと思うけど・・・

「正解！  
思いつきり嘘っぽい言い訳メールをする」

えっ？

「だって、友達が勝手に携帯いじって電話がつながって、そのまま気づかないなんてあるワケないじゃないですか」

そりゃそりうだ。

「なんか変・・・女の勘がそういう」

おおっ、女の勘の逆利用だね。  
女の勘ってするどいんだよね。

いろんな情報を総合的に判断して、  
嘘っぽい、っていうのを見抜く。

「そのとおり」

当然、友達が・・・っていうのは、  
嘘だとばれる。

「そのとおり」

だけど・・・じゃ、本当は何？  
ってなる。

「そのとおり」

またまた、悩み始めちゃうってワケね。

「そう。この状態で、彼女はあなたの思う壺に入りだす」

おおっ、思う壺だぁ。

「後は、自分の都合で適当あしらう」

彼女が「自分の思う壺」になるようにね。

「そうそう」

えっと、適当っていうのが、どう適当なのか、  
具体的に知りたいんだけど。

「あ、ごめん、適当というのは、  
たとえばメールにしる電話にしる  
昼休みにしか対応しない」

なるほど、ほかの時間は別の女と一緒にいるって感じだね。

「そうそう」

じゃ、電話で話すときも、彼女の機嫌を取るなんて、  
いらなくなるんだ。

「そうそう、適当に対応しよう。  
別にどうでもいいって感じで」

あ、それは、確か彼女を思う壺に入れてしまう感じになるなぁ。

人間関係って、片方が大して気にしないって態度を取ると、  
反対側が急に意地になったりする。  
そうなると、思う壺が逆転する。  
そういうことだよな。

「そのとおり」

あとは？

「たとえば、会いたいと話は、こっちの勝手に会うくらい。  
時間や場所はこっちに合わせさせる。  
アポ取る日も水曜とか木曜とか適当な感じで、金曜日はダメです」

なるほど。

「いやぁ、最近、仕事が忙しくてさ。なんてね。  
嘘っぽく言う」

あ、ほかの女に会っているのね、って  
勘ぐられるようにね。

「そうそう、  
ここまですれば、思う壺に入っているから、  
こっちの都合に合わせて彼女は動いてしまう」

そうなんだ。

「これは実際にやってみると、  
びっくりするくらい効果がある。  
それまで、デートに誘っても、  
なんだかんだ言って、誘いに乗らなかったり、  
乗っても彼女の暇なときに食事するくらい」

うーん、そうなる。

「付き合っているのよ、って感じが  
モロ出ている」

確かにそうなる。

「ところが一回このお仕置きルーティーンをした後は、  
こっちの誘いは他の人より優先させられる」

なるほど。

「もちろん、彼女があんまり乗り気じゃないそぶりを  
ちょっとでも見せたら、すぐに言う。  
あ、乗り気じゃないならいいよ、ってね」

うーん、偉そう。

「そうそう。  
偉そうに対応する。  
すると、彼女は気に入られるように行動してしまう。  
思い通りにならないものは思い通りにしようと反応するもの」

なるほど。

「ただし、この方法、  
使える男と使えない男がいる」

えっ、そうなの？

「それが最初に言ったリスク回避の問題」

あ、リスク回避しないって話だよな。

「そう。  
彼女の思う壺に入ってしまう最大の原因が、  
リスクを回避したいと思う気持ち」

なるほど。

「彼女に嫌われるリスク。  
このリスクを回避しようと思う気持ちが、  
彼女の思うつぼに入ってしまう原因なんです」

うんうん。

「この方法、うまくいけば彼女を好き勝手にできる。  
だけど、もちろん嫌われるリスクは当然ある」

そうだよ。

「そのリスクがあるのに、回避せずにやる気持ちがない男は  
いつまで経っても、彼女の思う壺から出て来れない」

そうだよ。

「それだと、友達でいることはできても、  
恋人になれることは永遠にやってこない」

なるほど。

「恋人らなりたいたいと思ったら、リスク回避をしないこと。  
嫌われるかとも思っても、気にせずやること。  
嫌われるリスクを承知の上で彼女が気になって仕方ない  
ことを仕掛ける。  
これができる男が、友達だった女とエッチする関係にすることができる男なんです」

そうですね。

もし、あなたが友達状態の気になる女性がいるなら、  
是非、この方法を試してみてくださいね。

今井 悠